

ゼラニウム・・・



開花時期は、ほぼ1年中で、寒い冬でも、気温が最低10度くらいあれば、ずっと咲き続けています。しかも、丈夫で作りやすく、美しいので、昔から根強い人気があります。特に、欧米ではベランダ・花壇によく利用され、街の風景にもすっかり馴染んでいます。

花は直立した茎の先につき、5枚の花弁があります。赤、桃、赤紫、白と多様で、八重咲きのものもあり、いずれもとても華やかです。葉は普通互生で、掌状もしくは羽状です。また、紋様のあるものが多く、美しい斑入り種もあります。茎葉に強い香気を持つのも大きな特徴です。

ところで、ここから話はややこしくなります。

園芸店に行くと、「ゼラニウム」「ペラルゴニウム」「ゲラニウム」と並んでいることがあります。これらは、いろんな意味で、みんな兄弟と言っていいでしょう。

実は、このゼラニウムというのは園芸上の名称で、確かに以前は、「ゼラニウム属」に属していたため、ゼラニウムの名前をそのまま使用して今に至っていますが、本当はペラルゴニウム属（テンジクアオイ属）です。

では、本来のゼラニウム属（フウロソウ属：Geranium）とは何かというと、中で一番有名な植物がゲンノショウコで、園芸店では、その仲間を「ゲラニウム」と呼んでいるというわけです。

ゼラニウム属からペラルゴニウム属が分離したのは1789年のことで、園芸植物として栽培されていたゼラニウム類も、このときにペラルゴニウム属に移ったのですが、それまで長くゼラニウムの名で親しまれてきたために、園芸名として残ってしまいました。

したがって、テンジクアオイ系統をゼラニウムと称し、ゲンノショウコ系統をゲラニウム（写真下左）と区別しています。さらに、ペラルゴニウム属の中でも、夏咲きのものをペラルゴニウム（写真下右）、四季咲きのものをゼラニウムとしています。

Pelargonium（ペラルゴニウム）は、ギリシャ語の「pelargos（コウノトリ）」が Geranium（ゼラニウム）は、「geranos（鶴）」が語源です。実の形がくちばしに似ていることから付けられました。

ゼラニウムの仲間を大きく分けると、次のような種類に分類することができます。

花ゼラニウム	花を観賞する一般的なゼラニウムです。
観葉ゼラニウム	葉に美しい斑が入りこれを鑑賞します。
ツタバゼラニウム	茎が直立せずほふくする、アイビーゼラニウム
ニオイゼラニウム	強いハッカやローズ臭を持ち、海外では香料作物として栽培され、最近ハーブとして国内でもよく見かけます。

挿し木で簡単に育てることが出来ますので、今後も団地内に増えていくことが予想されますね。

